

【東大和市】

校務DX計画

当市では、校務系ネットワークを外部ネットワークから分離し、児童・生徒の個人情報等について、セキュリティ対策を行ってきた。

教職員においては、校務支援システムのグループウェアやシステム機能を活用し、伝達事項や教務、保健、学籍、成績管理等のデジタル化を図り、一元的に管理できるようにする必要がある。また、クラウドツールの積極的な活用やFAX・押印の見直し、不合理な手入力作業の一掃により、公務の効率化やペーパーレス化の推進が可能である。さらに、今後の教育の情報化においては、デジタル化を更に推進していき、ロケーションフリー化や他の自治体とのシステム共有化等を進めていく必要がある。

そのため、次世代の校務システムへの移行できるよう、校務系ネットワーク及び校務支援システムの現状分析や「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言等を踏まえ、3つの項目について当市の取組みを進めていく。

1. ゼロトラストに基づいたネットワーク構築

当市では、教育ネットワーク環境を児童・生徒の個人情報等を取り扱う「校務系ネットワーク」とホームページの編集や学校の代表メールの送受信する「校務外系ネットワーク」、児童・生徒が教育活動で利用する「学習系ネットワーク」と3つのネットワーク環境で構成している。「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」が示す校務DX計画では、ゼロトラストに基づくネットワークが推奨されているため、十分なセキュリティ対策を講じたネットワーク環境の調査研究を進める。

2. 統合型校務支援システムの標準化

校務支援システムは市庁舎のセンターサーバで運用を行っており、教務、保健、学籍、成績管理又は、グループウェアの機能など幅広く業務で活用している。

今後、教職員の働き改革の観点や、人事異動等での業務負担を軽減するため、他の自治体と共同でシステム調達及び運営ができるよう検討を進める。

3. 校務系・学習系ネットワーク環境の統合

当市では3つのネットワーク環境に分離しているため、複数台の機器（パソコン及びタブレット）を利用している。そのため、環境間毎のデータのやり取りの複雑さや整備コストの増加などが課題である。ゼロトラストに基づくネットワーク環境を整備することで校務系、学習系の環境においてのデータのやり取りが円滑になることや、整備コストの減少、教職員の業務負担の軽減など、教職員の働きやすさの向上や効率的な教育活動の推進を図ることができるため、十分なセキュリティ対策を講じたネットワーク環境の調査研究を進める。